令和６年度
「令和の里海づくり」モデル事業

（未来に繋げ、体験ツアー実証とモニタリング調査による「ヒト・モノ・資金」の好循環連携体制づくり）

報 告 書

令和７年２月

特定非営利活動法人　玄海灘を守り育てる会

目　次

1　実施概要 1
1.1　目的 1
1.2　実施期間 1
1.3　実施内容 1
1.3.1　自然コンテンツの開発・検証 1
1.3.2　藻場・干潟等のモニタリング 1
1.3.3　連携ネットワーク 2
1.4　スケジュール 2
1.5　実施場所 3
1.6　安全衛生管理 3
1.6.1　実証実験時の注意事項 3
1.6.2　緊急連絡体制 4
2　実施結果 5
2.1　自然体験コンテンツの開発・検証 5
2.1.1　周知編 5
2.1.2　体験編 8
2.1.3　課題・改善点 13
2.2　藻場・干潟等のモニタリング 14
2.3　連携ネットワークの構築 21
3　まとめ 23

巻末資料・・・・・・・・・・・・・・・・24～34

1 実施概要

1.1 目的

当該地域では、温暖化による海域生態系の変化が急速に進んでおり、これまでの個別機関による努力では、人的・経済的に太刀打ちできない程の変化が起こりつつある。このような変化に対応しつつ、当該地域の自然環境を保全していくためには、これまでの活動を拡大させ、将来に向けた活動の担い手創出と育成、それぞれの活動団体の経済的自立や有機的連携が必要である。

そこで、本事業では、令和6年度令和の里海づくりの一環として、まずは地域資源コンテンツ開発および実証を行い、様々な主体と連携をとりながらネットワーク化を図り、加えて、担い手を育成しながら、このような取組が持続的かつ発展的なものとなることを目指すことを目的とした。

1.2 実施期間

自　令和6年5月23日

至　令和7年2月14日

1.3 実施内容

1.3.1 自然コンテンツの開発・検証

(1) 周知編

自然コンテンツ【周知編】は、これまで数十年撮りためた写真や海中動画を編集することで、当該地区の小学生を対象とする動画、タペストリー・展示物等のPR媒体を作成した。なお、海域ごとや浅場～深場といったバリエーションを考慮した。

実施期間は、6～8月として、5分程度の動画3本、展示物となるタペストリー3本とした。

作成した動画を基に9～11月、周辺小学生への説明を行い、アンケートを実施することで今後の自然コンテンツ作成へ反映させた。

(2) 体験編

自然コンテンツ【体験編】は、「初級体験編」と「一般向け編」の2編作成することとした。

「初級体験編」は、環境学習とシュノーケリング体験（藻場、生物観察）をセットとした自然体験ツアーを開発した。当該地区の小中学生（5名程度）を対象として、7～8月に実証を行った。また、アンケートを実施し、良かった点や改善点など意見を整理することで、コンテンツの完成度向上に役立てることとした。

「一般向け編」は、クルージング（海釣り）、シュノーケリング、SUP等を選択して体験できる自然体験ツアーを開発した。Mare Monteとも連携し、民間の方々（5名程度）を対象として、9月2日に実証を行った。

1.3.2 藻場・干潟等のモニタリング

(1) 既存資料調査

佐賀県水産課が10年おきに実施している藻場分布調査を収集・整理した。収集した資料は、「令和4年度玄海一円地区藻場分布調査報告書（佐賀県）」）であった。

(2) 現地調査

① ドローン空撮

上記の既存資料調査結果を参考として、調査範囲外または調査地点間における藻場の分布をドローン空撮で把握した。調査は、10～12 月として、自然コンテンツで実証する場所周辺とし、延長 2km 程度の範囲とした。

② 水中ドローン

ドローン空撮での藻場分布調査の補完として、水中ドローンによる水中動画撮影を行い、藻場の優占種を判別した。

1.3.3 連携ネットワーク

(1) 活動・連携機関の調整

まず、意欲がある機関と地域課題の議論や定期的情報交換を行っていくこととした。また、関連機関同士のホームページの相互リンクを行い、関係機関同士で SNS 活用による情報拡散で当該地域への関心強化（特に若者）し、協力者・連携者の拡大と協力した PR 活動を行うこととした。

(2) 協議会設置・運営

多様な主体が参加できるように、連携協議会を設置した。連携協議会は、年 2 回開催することとし、初回が実施内容説明、2 回目が調査結果共有とした。

1.4 スケジュール

業務スケジュールが、表 1.1 のとおりである。

表 1.1　スケジュール

内容		5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	計画・準備等	←	→									
1.3.1	自然コンテンツの開発・検証											
	(1) 周知編		←	編集・作成	→	←	説明・アンケート	→				
	(2) 初級体験編			←	→							
	(3) 一般向け編					←	→					
1.3.2	藻場・干潟等のモニタリング											
	(1) 既存資料調査		←	→								
	(2) 現地調査						←	→	→			
1.3.3	連携ネットワークの構築											
	(1) 活動・連携機関の調整	←	→									
	(2) 協議会設置・運営		○								○	
	とりまとめ								←	→	→	

1.5 実施場所

実施場所は、図 1.1 に示すとおりである。

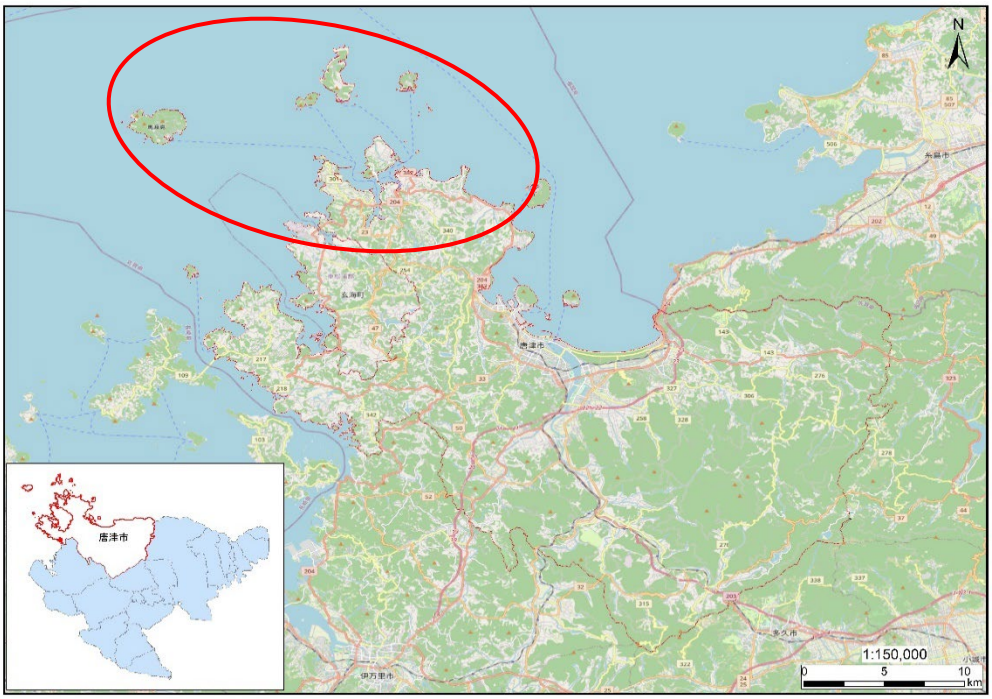


図 1.1　実施場所

1.6 安全衛生管理

1.6.1 実証実験時の注意事項

(1) 全般

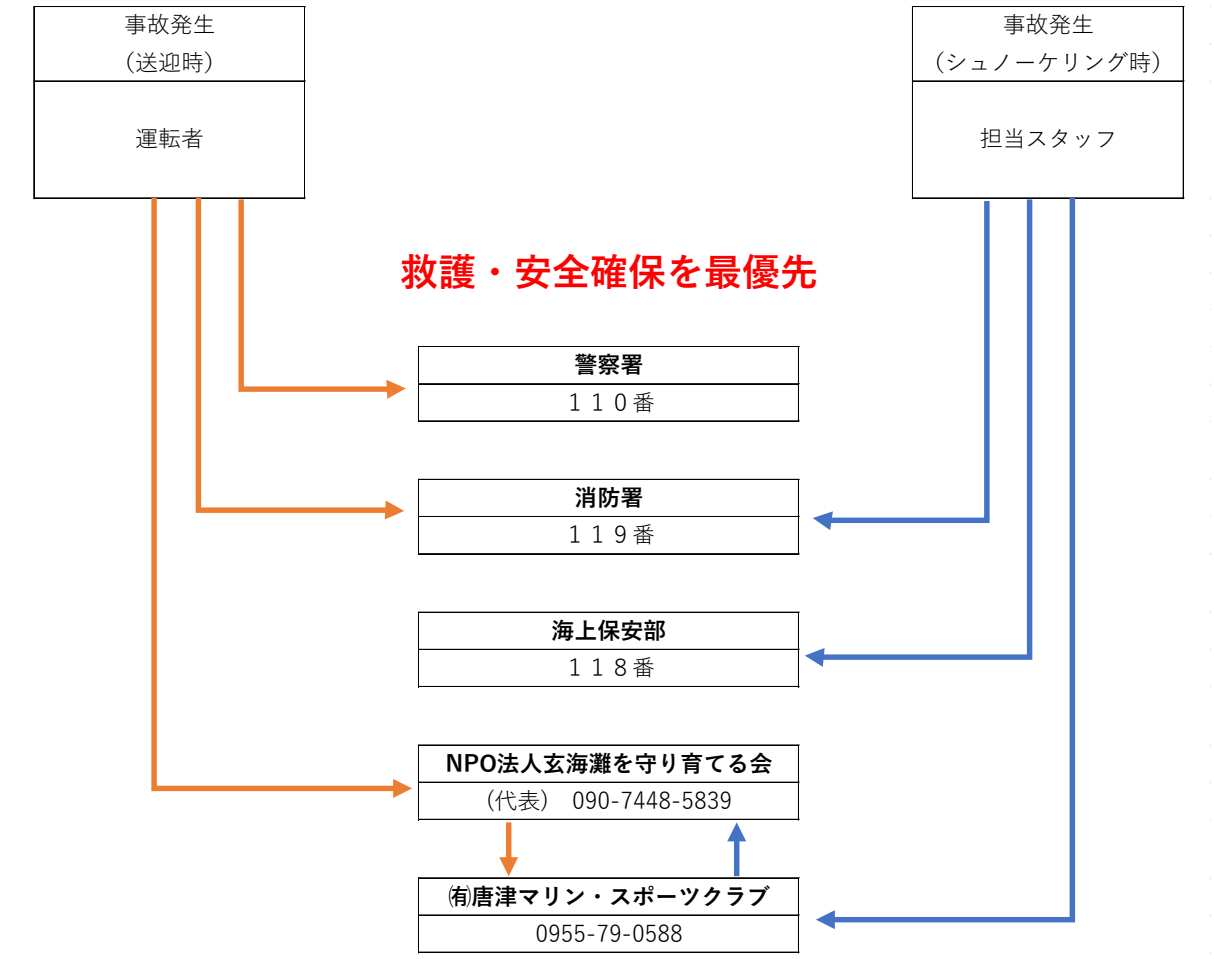
・荒天が見込まれる際には、中止の準備（連絡）を実施した。
・実証実験にあたり、体調確認、および保険の加入を行った。
・船上、陸上会場で出たゴミは、すべて持ち帰り、適切に処理した。
・実験中に撮影した画像が環境省等の HP の掲載される可能性があり、撮影時や説明時に口頭で承諾を得た。

(2) 海上

・海上に出る前に危険予知活動として、参加者に船上での留意事項や船への昇降時の留意事項の説明を行った。
・船上では船長以外に 2 名以上のスタッフを配置し、船上での安全を確保した。
・監視員を配置し、船舶航行や参加者の状況を監視した。

1.6.2　緊急連絡体制

緊急連絡体制表



2 実施結果

2.1 自然体験コンテンツの開発・検証

2.1.1 周知編

(1) 動画作成

これまで撮影した海中動画から、もともとの海、その変化、新たな課題という観点で以下の動画を作成した。

① 「美しい唐津の海」(3 分 18 秒)

② 「玄界灘の変化」(3 分 16 秒)

③ 「唐津の海ゴミ問題」(4 分 00 秒)

(2) タペストリー・展示物作成

これまで撮影した海中写真から、環境変化やその課題という観点で抽出してタペストリー・展示物を作成した。

① 「玄界灘の変化」(海藻・サンゴ)

② 「海中に沈むゴミ」

③ 「漂流漂着ゴミ」

(3) 周辺小学生への説明

7 月 2 日（火）に唐津市立東唐津小学校で海中写真や動画を用いた環境学習を実施し、前述した「動画」と「タペストリー・展示物」を用いた。各自然コンテンツは環境学習に有用であった。

① 参加者

NPO 法人玄海灘を守り育てる会：浪口志郎、藤元秀幸

有限会社唐津マリンスポーツ： 浪口知記

環境省・唐津市政策部、市民環境部、教育委員会：8 名

唐津市立東唐津小学校：58 名、教師 10 名

② 実施概要

10：20 から

説明内容：「海の環境教室」～玄海灘の海とその環境について～

・気候変動による環境・生物の変化

・海洋プラスチック問題

(4) アンケート

アンケート回答数は、参加した小学生全員の 58 名（1～6 年生）であった。アンケート結果の傾向として、「唐津の海はきれいだと自慢できる」、「天然記念物「七ツ釜」」、「海の生き物や海草などが無くなっている」といったことを知らない子供たちが学年ごとに半数以下の回答であり、地元の子供たちでも知らない子が多く、このような周知活動が重要であることがわかった。

(5) 周知編における成果と課題

自然コンテンツである「動画」、「タペストリー・展示物」を開発・作成し、東唐津小学校（1～6 年生）対象として、環境学習を行い、各自然コンテンツが有用であることを確認した。次世代に玄海の貴重かつ美しい自然を守り、環境にやさしい行動をとっていくことを継承することの重要性が再認識された。一方、地元の子供たちでも知らない子が多く、このような周知活動が重要であることがわかった。地域の小中学生に自然環境を大切にしつつ、地域を愛してもらうことが重要であり、唐津の海、七つ釜、温暖化等の環境変動やゴミの増加で海の生物が少なくなっていることを地元の小学生でもよく知らない状況が確認され、環境学習を継続していく必要がある。

2.1.2 体験編

(1) 初級体験編

① 実施概要

・日時：7 月 22 日

・参加者：NPO 法人玄海灘を守り育てる会：浪口志郎、藤田孝康

有限会社唐津マリンスポーツ： 浪口知記

唐津市内小中生：5 名、保護者 1 名

時間	プログラム
09:30～10:00	集合　唐津マリンスポーツクラブ
10:00～11:00	オープニング（玄界灘の海とその環境について、安全配慮事項）
11:00～11:30	準備等
11:30～13:00	シュノーケリング体験
13:00～14:00	昼食・アンケート意見交換

② 実施内容

写真 2.1　オープニング

写真 2.2　シュノーケリング体験

写真 2.3　アンケート

写真 2.4　シュノーケリング体験

③ アンケート結果

・5名全員がシュノーケリング体験を楽しんでくれた。サンゴや魚類等、海の生物に興味を持ってくれ、かつ友達と一緒にという体験が楽しめた要因と思われる。
・釣り、SUP、ダイビング等の他のアクテビティにも興味を持ってもらえた。
・他の場所（七ツ釜やサンゴが多い場所）でもシュノーケリング体験等を実施したいという思いを持ってもらえた。
・海のゴミ問題にも興味を持ってもらえた。
・保護者にも海の生物や環境、安全配慮事項（事前説明、体験時）にも満足感や安心感を与えられた。

④ 課題等

・周辺小中学生を中心としてモニター集めを行い、集合を唐津マリンスポーツクラブにして、送迎はなしとした。
・移動時やシュノーケリング体験時の安全上のリスクを軽減するため、実施場所は集合場所近くの漁港隣接場所とした。
・シュノーケリング体験することで小中学生の興味は広がり、他に体験したいこととして、釣りやダイビングが挙がった。
・メニューと金額設定をどうするかによって、商品として成立するかは今後とも検討が必要である（人数を多くすると収益は増えるが、安全上のリスクが増大し、これらに対応するコストや手間が増大する）。

(2) 一般向け編

・日時：9 月 2 日（月）

・参加者：NPO 法人玄海灘を守り育てる会：浪口志郎、藤田孝康

・唐津マリンスポーツクラブ　浪口知記、浪口紀伊子

・Mare Monte:宮田修

・一般：7 名（福岡市内在住）

時間	プログラム
09:30～10:00	集合、準備、体調確認等
10:00～10:10	オープニング ・NPO玄海等を守り育てる会について ・令和の里海づくりモデル事業について ・本日の実施内容
10:10～10:20	SUPについて シュノーケリングについて
10:20～10:30	安全事項（船上、SUP、シュノーケリング）について
10:30～11:10	クルージング（湊漁港～七ツ釜～馬渡島）
11:10～12:30	馬渡島 ・SUP ・シュノーケリング
12:30～13:00	昼食
13:00～14:00	馬渡島 ・SUP ・釣り ・シュノーケリング
14:00～14:30	クルージング（馬渡島～湊漁港）
14:30～14:40	片付け・着替え
14:40～15:00	アンケート クロージング

① 実施内容

写真 2.1　クルージング

写真 2.2　クルージング

写真 2.3　SUP

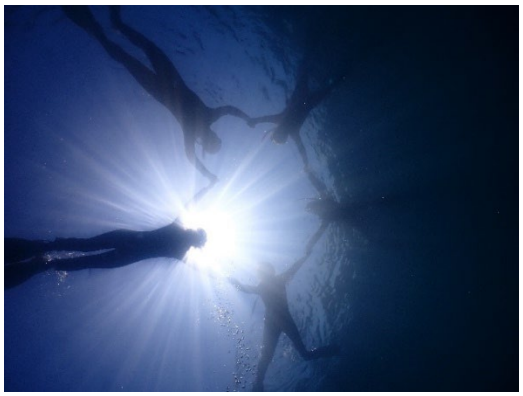


写真 2.4　シュノーケリング

② アンケート結果

・7 名全員が企画を楽しんでくれた。

・クルージング、シュノーケリング、SUP、釣りとメニューが多いことでそれぞれの趣向に併せて時間を過ごす内容となった。

・ダイビングにも興味を持ってもらえ、このような企画に次回も参加したいとの要望が多かった。

・クルージング中に見える島や体験場所の地形がわからない参加者が多かった。

・写真等をフィードバックし、SNS で拡散したい旨の内容が多かった。

・送迎があると参加しやすいのではという意見があった。

・大人でも体験会等があると参加しやすいという意見があった。

・事前にタイムスケジュール、場所等を詳しく提示して、宣伝した方がよいとの意見があった。

・タイムスケジュールやシュノーケリング、SUP の説明、安全上の説明については必要かつ安心感を与える内容であったとの意見であった。

③ 課題等

・実施者や参加者にとっても楽しめるメニューで組み合わせ等を工夫することでバリエーションが増える内容となった。

・安全上のリスクやスケジュール調整の問題もあり、集合は唐津マリンスポーツクラブとしたため、送迎はなしとした。送迎をどうするかという問題は継続的課題である。

・参加者にとって、時間的にもちょうどよく、参加費は3,000～10,000円のイメージが多かった。

・参加する集客や宣伝方法には、まだ改善の余地がある（告知チラシ、地図等）。

・メニューと金額設定をどうするかによって、商品として成立するかは今後とも検討が必要である（人数を多くすると収益は増えるが、安全上のリスクが増大し、これらに対応するコストや手間が増大する）。

(3) 体験編における成果と課題

初級体験編は、少人数の場合、小学校対象と夏休み編とすれば、環境学習効果がより高まることを実感した。また、安全管理上の緊急連絡体制等の整備も成果といえる。また、一般体験編は、商品としての手ごたえを実感した。

一方、初級体験編では、実体験も加え、継続性のある活動を行っていくことが課題である。また、対象が子供のため、見張り員が多くかかる（安全管理上の課題）。さらに、送迎の問題もあり、今後、実施場所を離島に拡大する場合、より慎重な検証が必要である。

一般体験編では、集客数、安全管理上の人員配置、イベント回数、メニューのバランスを考慮した経済性の検討が必要であり、宣伝や募集（安全安心、環境配慮等）も含めた観光振興策と連動させた商品化の検証を継続する必要がある。

2.1.3 課題・改善点

参加者からの意見（アンケートの自由記載、ヒアリング）をもとに、今後の改善・対応内容は、表 2.6 のとおりである。

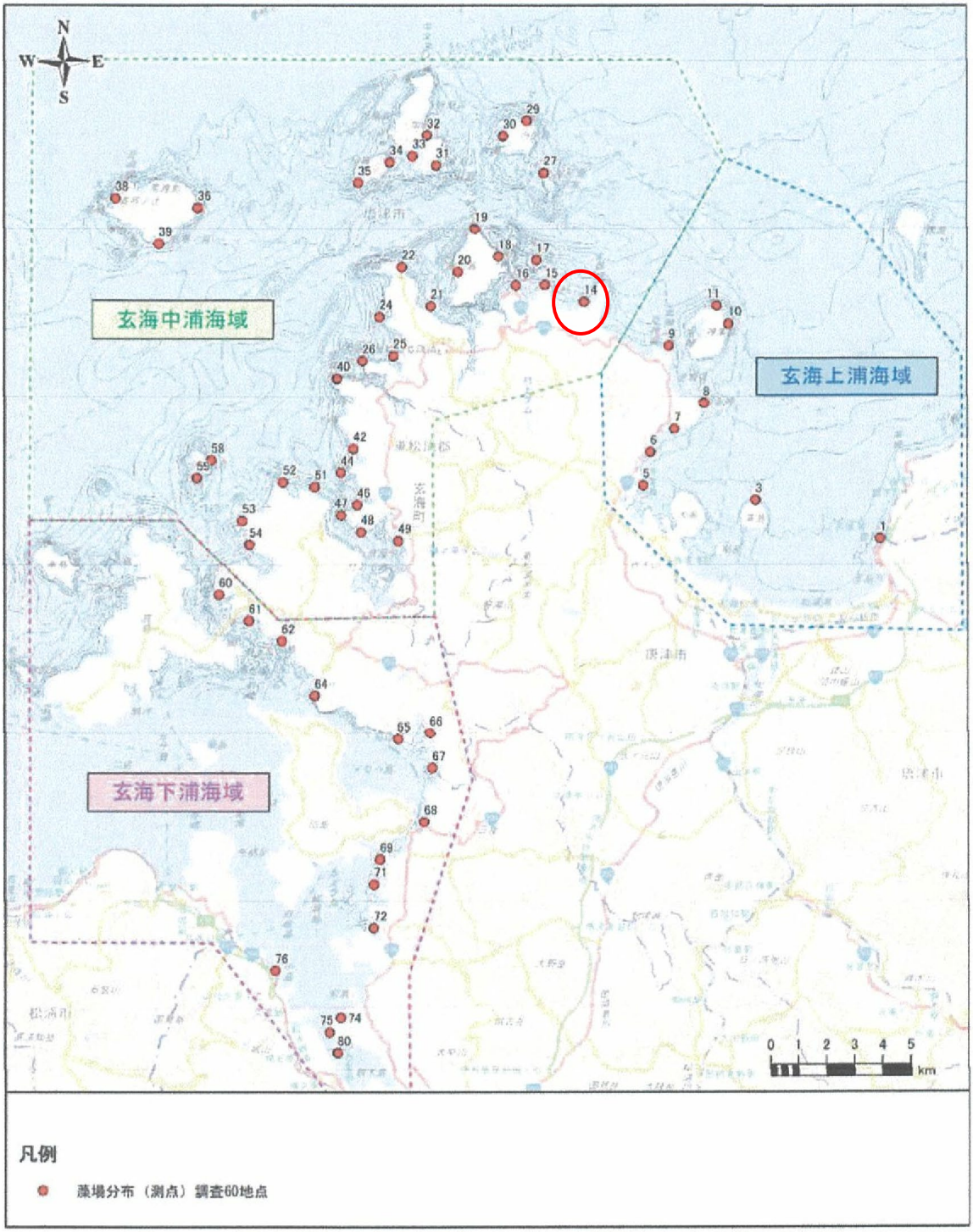
表 2.6　参加者からの意見および改善・対応内容

	参加者からの意見	改善・対応内容
①	【初級体験編】 安全管理上の問題として、集合解散をどうするかということがあった。	移動時やシュノーケリング体験時の安全上のリスクを軽減するため、実施場所は集合場所近くの漁港隣接場所とした。送迎をどうするかは今後も課題である。
②	【初級体験編】 シュノーケリング体験することで小中学生の興味は広がり、他に体験したいこととして、釣りやダイビングが挙がった。	釣りやダイビングのメニューづくりは今後の課題である。また、メニューと金額設定をどうするかによって、商品として成立するかは今後とも検討が必要である（人数を多くすると収益は増えるが、安全上のリスクが増大し、これらに対応するコストや手間が増大する）。
③	【一般体験編】 クルージング中に見える島や体験場所の地形がわからない参加者が多かった。	唐津の7離島を含めた図面を作成し、オリエンテーリング時に活用する。
④	【一般体験編】 送迎があると参加しやすいのではという意見があった。	初級体験編の①と同様である。
⑤	【一般体験編】 事前にタイムスケジュール、場所等を詳しく提示して、宣伝した方がよいとの意見があった。	HPやSNSを活用した方策を検討予定である。
⑥	【一般体験編】 大人でも体験会等があると参加しやすいという意見があった。	メニューや金額設定を踏まえて、今後も体験会を継続していく。

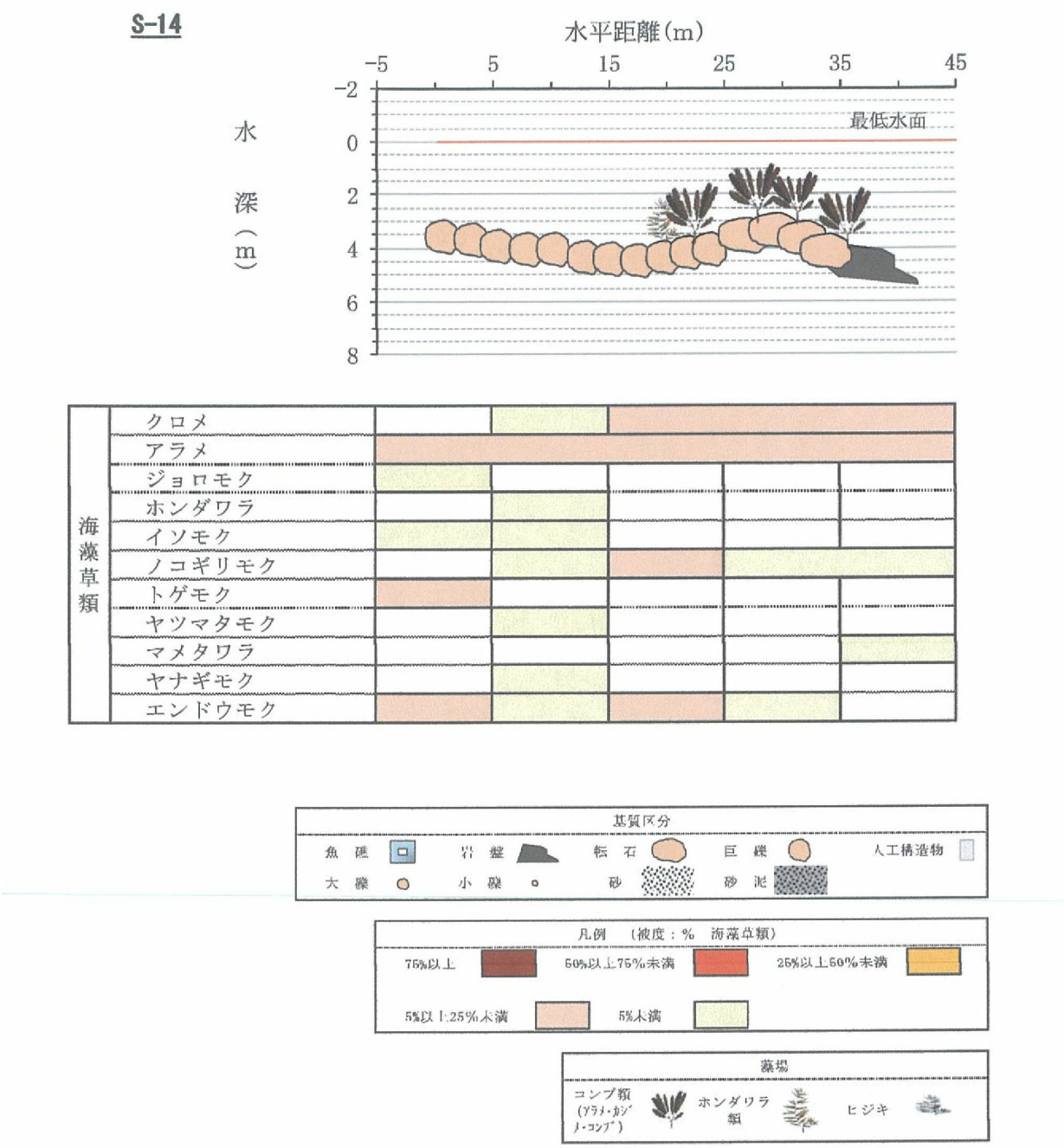
2.2 藻場・干潟等のモニタリング

(1) 既存資料調査

佐賀県に対し、資料収集を行った。その結果、佐賀県の藻場測点（スポット）調査における測点位置図は、以下のとおりとなっている（引用：佐賀県「令和 4 年度玄海一円地区藻場分布調査報告書」）。このうち、七ツ釜周辺の調査地点は、測点 14（図中の赤丸）であった。

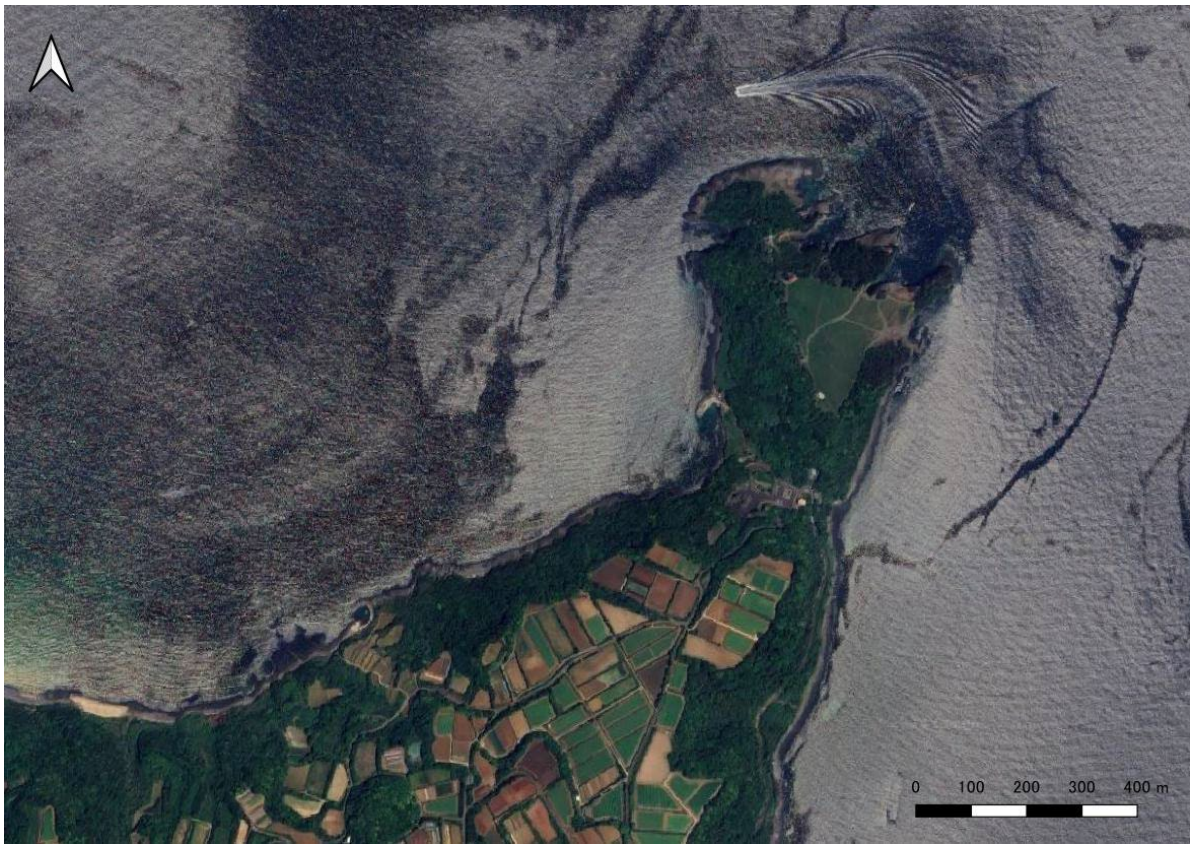


当該資料における測点 14 調査結果は、以下のとおりである。岸から水平距離 20～35m 程度のところにクロメ、アラメとホンダワラ類が５％以上 25%未満の被度で確認されている（引用：佐賀県「令和 4 年度玄海一円地区藻場分布調査報告書」）。なお、測点 14 の緯度経度は、33° 32’ 42.5”、129° 55’ 25.0”とされている（世界測地系；佐賀県水産課ヒヤリングより）。



(2) 現地調査

① 調査場所：唐津市屋形石地先（七ツ釜周辺）



② 調査日時

ドローン(Phantom4RTK)空撮：2024 年 12 月 2 日

水中ドローン（BlueROV2）：2024 年 12 月 3 日

③ 調査方法

ドローンによって、対象範囲を撮影した。また、撮影した画像を合成し、歪みのないオルソ画像を作成した。撮影範囲は、海岸延長 2,000m 程度、岸沖方向 300m 程度とし、飛行高度 70m、作成されるオルソ画像の解像度は 2cm/pixel とした。

また、ヒヤリングおよび水中ドローンでの調査対象範囲内に藻場が 3 ヶ所確認され、それぞれ緯度経度、水深、優占種、被度を確認するとともに、画像を撮影した。

写真　ドローン使用機器	写真　ドローン撮影状況

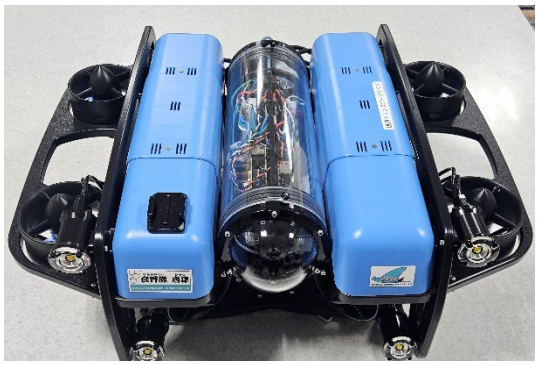



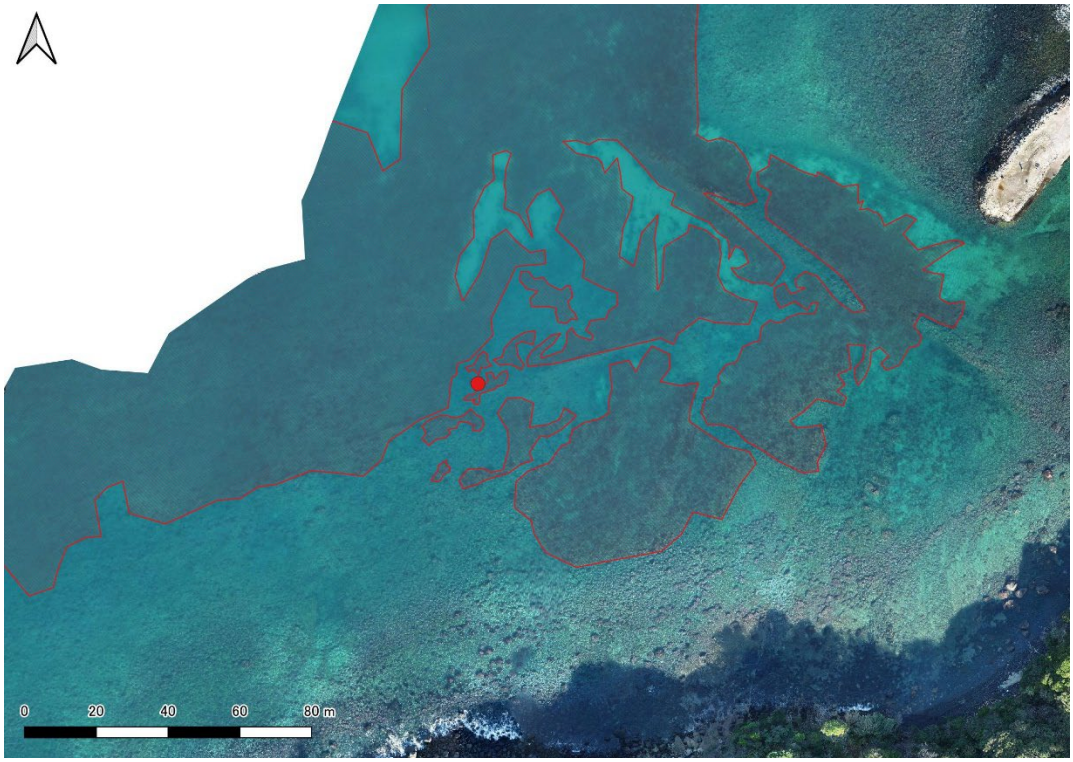
写真　水中ドローン使用機器	写真　水中ドローン撮影状況

④　調査結果

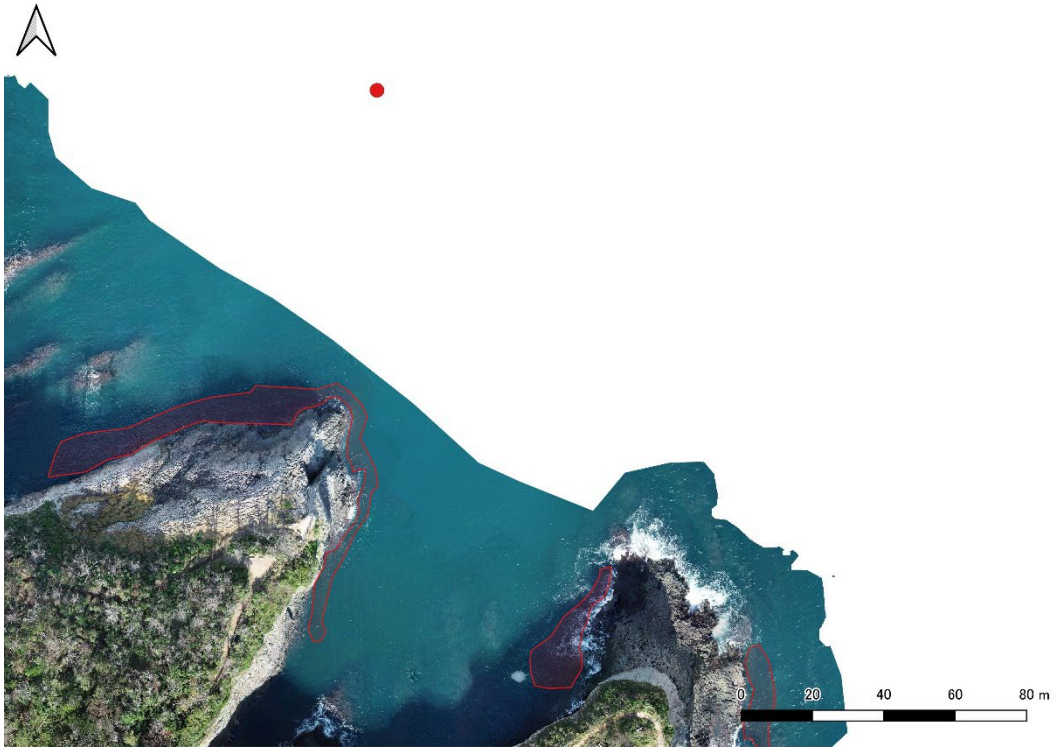
調査対象範囲の状況は、空撮画像は下図のとおりである（七ツ釜周辺）。

空撮による藻場分布は、下図のとおりである。

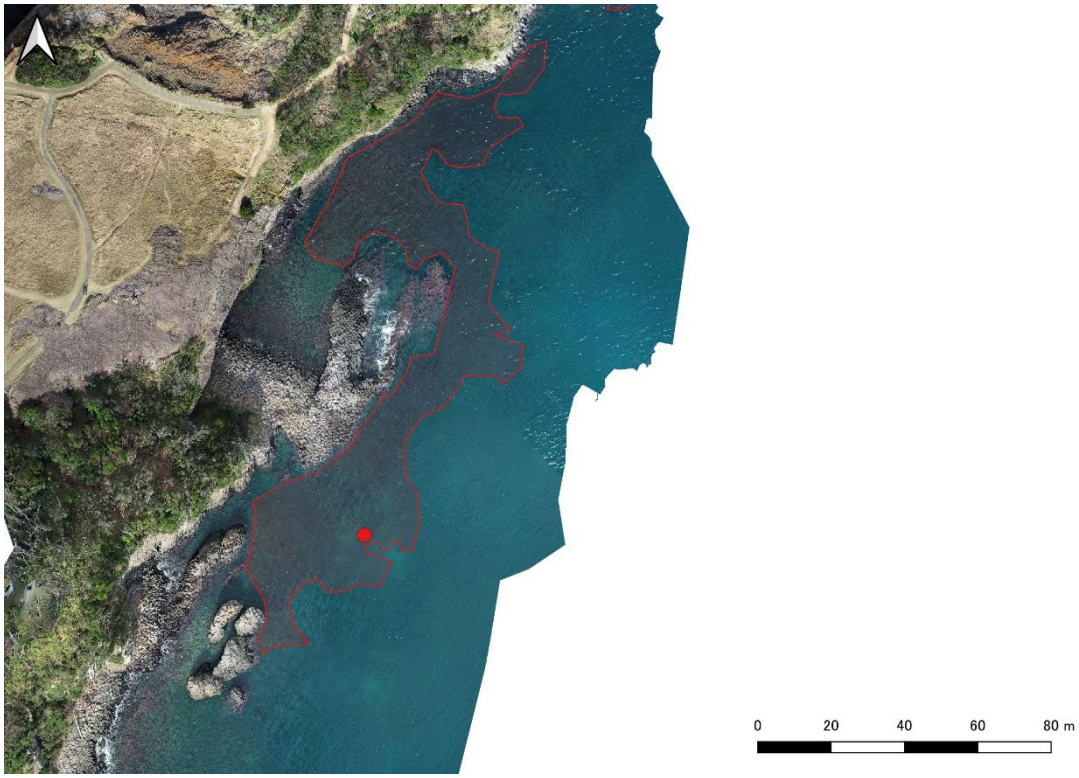
【七ツ釜西（s-14)】N33° 32′ 47″ E129° 55′ 35″（世界測地系）



【七ツ釜北】N33° 33′ 03″ E129° 55′ 55″（世界測地系）



【七ツ釜南】N33° 32′ 51″ E129° 55′ 57″（世界測地系）



七ツ釜周辺おける藻場は、七ツ釜西（S-14）、七ツ釜北、七つ釜南の 3 ヶ所であることがわかった。一方、七ツ釜周辺の藻場は、過去 20～30 年に減少の一途を辿っており、南方系の魚類やサンゴが増加している傾向がある。現存する藻場を可能なかぎり保全していく必要がある。

地点名	緯度経度（世界測地系）		優先種等	被度
七ツ釜西	N33° 32′ 47″	E129° 55′ 35″	ノコギリモク等	5以上25％未満
七ツ釜北	N33° 33′ 03″	E129° 55′ 55″	クロメ、カジメ	5～10%
七ツ釜南	N33° 32′ 51″	E129° 55′ 57″	クロメ、カジメ、ノコギリモク	5～10%

(3) 藻場・干潟等のモニタリングにおける成果と課題

既存知見によって、七ツ釜周辺のモニタリングポイントは少し離れた s-14 しかないことがわかった。ヒヤリングと今回の調査で当該地域に 3 ヶ所の藻場があり、現状の七ツ釜および七ツ釜周辺の藻場の種類、面的分布を把握した。また、これらの藻場は、過去 20～30 年で減少（七つ釜南における水中動画比較，参照）していることがわかった。

一方、これまで七ツ釜周辺は、定量的な藻場の情報がポイントでしかなく、今後とも面的な藻場分布把握を行うとともに、当該地域の観光資源と生態系の基盤である藻場の保全を行っていくことが必要である。なお、佐賀県による s-14 報告の過去情報との比較も今後の課題である。

七ツ釜　西　(S-14 地点)

七ツ釜　北

七ツ釜　南（2024 年 12 月水中ドローン）

七ツ釜　南における同地点の水中動画比較（左：2000 年 5 月，右：2024 年 9 月）

2.3 連携ネットワークの構築

(1) 連携協議会設置・運営

① 第 1 回連携協議会

日　時：令和 6 年 7 月 25 日（木）　13:00～15:00

場　所：唐津市水産会館研修室（唐津市海岸通 7182 番地 217）

参加者（敬称略）：

（１） NPO 法人唐津・玄海観光交流社 古賀修，池田幸

（２） NPO 法人 玄界灘を守り育てる会 浪口志郎，藤元秀幸，藤田孝康

（３） フィッシャーマン唐津 坂本智彦

（４） 佐賀玄海漁業協同組合 梅崎博昭

内　容：巻末資料４参照

② 第 2 回連携協議会

日　時：令和 7 年 1 月 31 日（金）　13:00～15:00

場　所：唐津市水産会館研修室（唐津市海岸通 7182 番地 217）

参加者（敬称略）：

（１） NPO 法人唐津・玄海観光交流社 古賀修，池田幸

（２） NPO 法人 玄界灘を守り育てる会 浪口志郎，藤元秀幸，藤田孝康

（３） フィッシャーマン唐津 坂本智彦

（４） 佐賀玄海漁業協同組合 梅崎博昭

内　容：巻末資料５参照

(2) 活動・連携の結果

① 関連機関との相互リンク

まず、以下の関係機関と地域課題の議論や定期的情報交換を行っていくこととした。

・NPO 法人唐津・玄海観光交流社

・フィッシャーマン唐津 坂本智彦

・佐賀玄海漁業協同組合 梅崎博昭

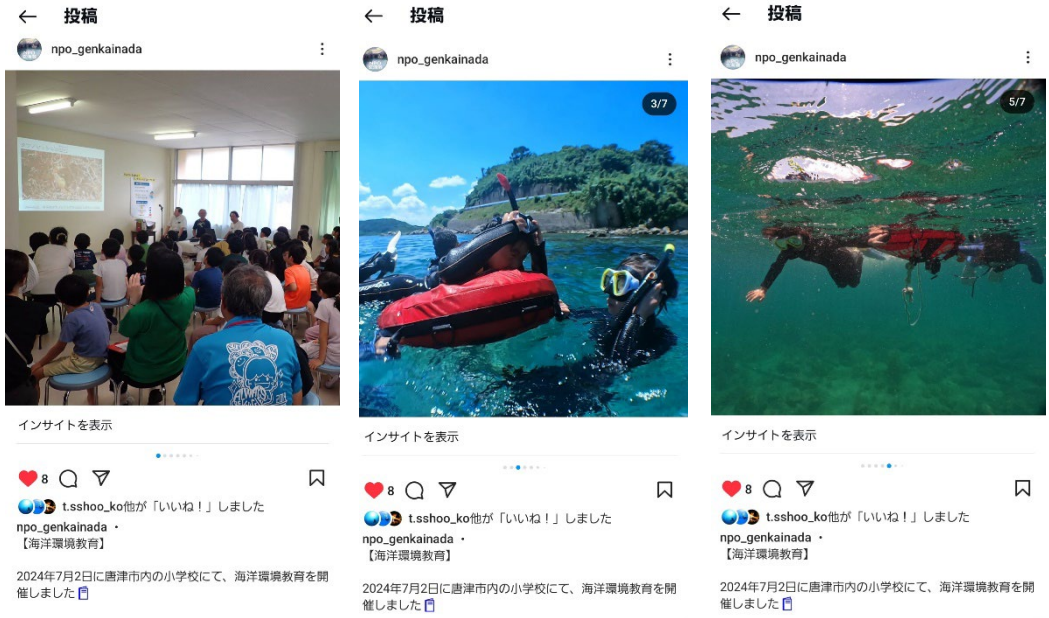
また、関係機関同士で SNS 活用による情報拡散で当該地域への関心を強化（特に若者）し、協力者・連携者の拡大と協力した PR 活動を行うこととした。

・玄海灘を守り育てる会　HP 開設準備中、Instagram 開設（玄海観光交流社、マーレモンテをフォロー中）

・一般・外部団体に向け Instagram で広報し認知度を上げ連携ネットワーク構築に繋げる

② 関係者との協力

宮田氏（SUP 事業者 マーレモンテ）、LINE 交換済み



(3) 連携ネットワークの成果と課題

これまで個別に対応してきた団体が一同に会し、協議会を立ち上げたこと、今後継続的な情報共有を行うことで一致したことが成果である。

このような成果・課題、将来像について関係者で共有していくために、協議会を今後とも継続させ、それぞれが積極的かつ共同で里海づくりに関与し、連携の輪を拡大させていくことが重要である。

3 まとめ

【成果】

(1)自然コンテンツである「動画」、「タペストリー・展示物」を開発・作成し、東唐津小学校（1～6 年生）対象として、環境学習を行い、各自然コンテンツが有用であることを確認した。次世代に玄海の貴重かつ美しい自然を守り、環境にやさしい行動をとっていくことを継承することの重要性が再認識された。地元の子供たちでも知らない子が多く、このような周知活動が重要であることがわかった。

(2)初級体験編は、少人数の場合、小学校対象と夏休み編とすれば、環境学習効果がより高まることを実感した。また、安全管理上の緊急連絡体制等の整備も成果といえる。

(3)一般体験編は、商品としての手ごたえを実感した。

(4)既存知見によって、七ツ釜周辺のモニタリングポイントは少し離れた s-14 しかないことがわかった。ヒヤリングと今回の調査で当該地域に 3 ヶ所の藻場があり、現状の七ツ釜および七ツ釜周辺の藻場の種類、面的分布を把握した。また、これらの藻場は、過去 20～30 年で減少（七つ釜南における水中動画比較，参照）していることがわかった。

(5) これまで個別に対応してきた団体が一同に会し、協議会を立ち上げたこと、今後継続的な情報共有を行うことで一致したことが成果である。

【課題】

(1) 地域の小中学生に自然環境を大切にしつつ、地域を愛してもらうことが重要であり、唐津の海、七つ釜、温暖化等の環境変動やゴミの増加で海の生物が少なくなっていることを地元の小学生でもよく知らない状況が確認され、環境学習を継続していく必要がある。

(2)初級体験編では、実体験も加え、継続性のある活動を行っていくことが課題である。また、対象が子供のため、見張り員が多くかかる（安全管理上の課題)。また、送迎の問題もあり、今後、実施場所を離島に拡大する場合、より慎重な検証が必要である。

(3)一般体験編では、集客数、安全管理上の人員配置、イベント回数、メニューのバランスを考慮した経済性の検討が必要であり、宣伝や募集（安全安心、環境配慮等）も含めた観光振興策と連動させた商品化の検証を継続する必要がある。

(4)これまで七ツ釜周辺は、定量的な藻場の情報がポイントでしかなく、今後とも面的な藻場分布把握を行うとともに、当該地域の観光資源と生態系の基盤である藻場の保全を行っていくことが必要である。なお、佐賀県による s-14 報告の過去情報との比較も今後の課題である。

(5) このような成果・課題、将来像について関係者で共有していくために、協議会を今後とも継続させ、それぞれが積極的かつ共同で里海づくりに関与し、連携の輪を拡大させていくことが重要である。

巻　末　資　料

資料１：自然コンテンツ【周知編】
資料２：自然コンテンツ【初級体験編】
資料３：自然コンテンツ【一般向け編】
資料４：第１回連携協議会議事録
資料５：第２回連携協議会議事録
資料６：アンケート

【資料１】令和６年度　「令和の里海づくり」モデル事業
未来に繋げ、体験ツアー実証とモニタリング調査による「ヒト・モノ・資金」の
好循環連携体制づくり

１．自然コンテンツ【周知編】
２．日時：令和６年７月２日（火）　10：30～
３．場所：唐津市立東唐津小学校 佐賀県唐津市東唐津４丁目４−２９
４．参加者（敬称略）：
　（１） NPO 法人玄海灘を守り育てる会：浪口志郎、藤元秀幸
　（２） 有限会社唐津マリンスポーツ： 浪口知記
　（３） 環境省・唐津市政策部、市民環境部、教育委員会：8 名
　（４） 唐津市立東唐津小学校：58 名、教師 10 名
５．内容：
（１） 玄界灘の海とその環境について
　① 気候変動による環境・生物の変化
　② 海洋プラスチック問題
　③ アンケート

東唐津小で海の環境教育
地元NPO 玄界灘の生態変化紹介

海の変化を写真や動画で紹介する浪口知記さん（奥右）＝唐津市の東唐津小

【唐津市】唐津市のNPO法人「玄海灘を守り育てる会」（浪口志郎理事長）は2日、同市の東唐津小で海の環境変化を考える授業を行った。身近な海で起きている地球温暖化や海洋ごみの問題を全校児童58人が学んだ。

本紙唐松版に月1回、「海中散策～唐津のグランブルー～」を連載している同会の浪口知記さん（36）が、撮影した写真や動画を使って玄界灘（会の名称は玄海灘）の海中の様子を紹介した。以前はいなかったクマノミが生息している現状などを示し、「水温1度の変化は気温10度の変化と同じ。海の中で激変が起きている」と語った。

海底の粗大ごみや七ツ釜の洞窟に浮かぶごみなどの画像も映し出した。「みんなにできることは、知って、行動すること」とメッセージを送った。

6年の大河内木葉さんは「いろんな色の魚がいて、きれいだなと思ったけど、魚が減っているのは初めて知った。家族にも話したい」と話した。同会による初の環境教育の授業で、今後も展開していくという。（宮﨑勝）

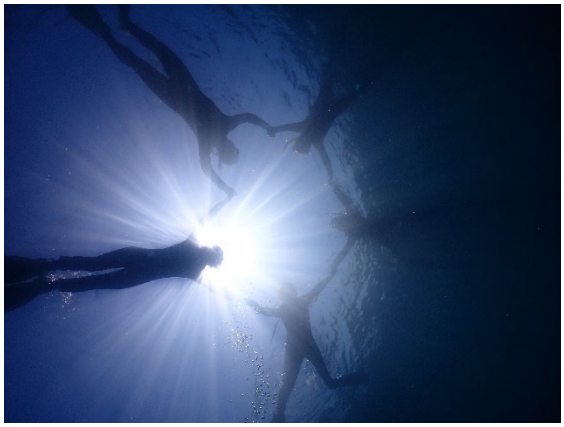
2024 年 7 月 3 日 佐賀新聞掲載

【資料２】令和６年度　「令和の里海づくり」モデル事業
未来に繋げ、体験ツアー実証とモニタリング調査による「ヒト・モノ・資金」の
好循環連携体制づくり

１．自然コンテンツ【初級体験編】の開発・実証(対象者：小中学生)
２．日時：令和６年７月 22 日（月）　10：00～
３．場所：唐津市湊町 107-5　唐津マリンスポーツクラブ内
４．参加者（敬称略）：
　（１）　NPO 法人　玄界灘を守り育てる会　浪口志郎，藤田孝康
　（２）　(有)唐津マリンスポーツクラブ　浪口知記
　（３）　小・中学生５名
５．内容：
（１）　シュノーケリング体験(藻場、生物観察)
　①　玄界灘の海とその環境について
　②　安全配慮事項
　③　シュノーケリング体験
　④　昼食・アンケート

【資料３】令和６年度　「令和の里海づくり」モデル事業
未来に繋げ、体験ツアー実証とモニタリング調査による「ヒト・モノ・資金」の
好循環連携体制づくり

１．自然コンテンツ【一般向け編】の開発・実証(対象者：一般)
２．日時：令和６年９月 22 日（月）　10：00～16:00
３．場所：唐津市湊町 107-5　唐津マリンスポーツクラブ内
４．参加者（敬称略）：
　（１）　NPO 法人　玄界灘を守り育てる会　藤田孝康
　（２）　(有)唐津マリンスポーツクラブ　浪口知記、浪口紀伊子
　（３）　Mare Monte:宮田修
　（４）　一般：７名（福岡市内在住）
５．内容：
（１）　シュノーケリング体験(サンゴ、生物観察)
　①　玄界灘の海とその環境について
　②　SUP について
　③　シュノーケリングについて
　④　安全配慮事項
　⑤　クルージング、SUP、シュノーケリング、釣り体験(昼食含む)
　⑥　アンケート



【資料４】令和６年度　「令和の里海づくり」モデル事業
未来に繋げ、体験ツアー実証とモニタリング調査による「ヒト・モノ・資金」の
好循環連携体制づくり

１．第１回協議会設置

２．日時：令和６年７月 25 日（木）13：00～15:00

３．場所：唐津市水産会館研修室（唐津市海岸通 7182 番地 217）

４．参加者（敬称略）：

（１） NPO 法人唐津・玄海観光交流社　古賀修，池田幸

（２） NPO 法人　玄海灘を守り育てる会　浪口志郎，藤元秀幸，藤田孝康

（３） フィッシャーマン唐津　坂本智彦

（４） 佐賀玄海漁業協同組合　梅崎博昭

５．内容：

（１） NPO 法人　玄海灘を守り育てる会について（浪口氏）

① 会の名前のとおり、玄海灘を守り育てることを目的として、2011 年から当会を立上げた。

② 本会は、海の環境保全、保護、美化活動、学術・文化・芸術またはスポーツの振興を図る活動、子供の健全育成を図る活動、シンポジウム、フォーラム、研修会、講習会の開催および自然環境の現状に関わる活動を実施していく方向であり、種苗放流、モニタリング、海中・漂着ゴミの回収、講演会等も行ってきた。

③ 直近における主な活動方針は、資料のとおりであり、「令和の里海づくり」モデル事業をはじめ、海と環境保全と教育、ルートグランブルーと地域資源の磨き上げ等も行っていく方針である。

（２） 「令和の里海づくり」モデル事業について（藤田氏、他）

① 「令和の里海づくり」モデル事業は、環境省事業の公募に提案し、全国 19 ヶ所が選定され、当会事業も選定された。

② 具体的には、以下の３点を実施していく。

・「周知編」としての自然コンテンツ作成、「体験編」の開発（小中学校用、一般向け体験編）としての自然体験ツアーの実証。

・藻場等のモニタリング（既存資料調査、ドローン空撮、水中ドローン）

・連携ネットワークの構築（協議会設置・運営）

③ これを機会に地域連携協議会を設置する。連携するとともに随時連携し、２月ぐらいにその結果を報告することで了承された。

（３） その他協議事項等

① 玄海灘を守り育てる会のその他活動方針（藤本氏、他）

・基本的に当会活動方針と令和の森モデル事業内容の方向性が一致している。

・その他、玄海の地域資源を活かした体験教育が必要である。

・離島における漁港を活用した体験ツアーに繋がることを希望しており、その際、民泊との関係性も出てくる。

・ルートグランブルーおよびこれらに連なる名所（七ツ釜、名護屋城跡等）施設等もあるため、これらを積極的に活用しながら、地域資源の魅力を高める活動が必要である。

② 唐津・玄海観光交流社（古賀氏）

・唐津・玄海地区の民泊について説明があった。

【資料５】令和６年度　「令和の里海づくり」モデル事業
未来に繋げ、体験ツアー実証とモニタリング調査による「ヒト・モノ・資金」の
好循環連携体制づくり

１．第２回協議会
２．日時：令和７年１月 31 日（金）13：00～15:00
３．場所：唐津市水産会館研修室（唐津市海岸通 7182 番地 217）
４．参加者（敬称略）：
（１） NPO 法人唐津・玄海観光交流社　古賀修，池田幸
（２） NPO 法人　玄海灘を守り育てる会　浪口志郎，藤元秀幸，藤田孝康
（３） フィッシャーマン唐津　坂本智彦
（４） 佐賀玄海漁業協同組合　梅崎博昭
５．内容：
（１） 「R6 年度令和の里海づくり」モデル事業について
① 令和６年度実施内容報告（今年度の事業概要と報告書について説明）
・「周知編」としての自然コンテンツ作成、「体験編」の開発（小中学校用、一般向け体験編）としての自然体験ツアーの実証を行い、藻場等のモニタリング（既存資料調査、ドローン空撮、水中ドローン)、連携ネットワークの構築（協議会設置・運営）の実施状況と成果と課題を報告した。
② 環境学習の重要性およびこれを継続、普及していくための課題（大事なことであるものの、労力が課題であり、その労力に見合う予算がない）を討議した（実施したのはいいが、実施するために多くの労力がかかったこと等、具体的には受け入れ先がなく、何度も交渉した)。
③ 自然コンテンツの開発・検証についても安全管理上の問題が大きく、今後の課題として認識された。
④ 当 NPO 法人としては、これらの課題を乗り越えつつ、行政含めて一般にも粘り強く啓蒙・交渉し、このような活動を継続して実績を積み、存在感を示していくことが必要である。
⑤ 実績を踏まえて、行政および一般への啓蒙が重要であり、一般への捉え方として唐津市だけでなく、福岡市を含む等、ターゲットを広げるような発信も重要となってくる。
⑥ 1/29～30 に事務局エメックスと学識経験者の現地視察および打合せがあり、この中でも成果と課題について、指摘や助言に加えて共感してもらえたこと（上記課題含む）を報告した。
（２） 令和７年度戦略的「令和の里海づくり」基盤構築事業の公募について
① 令和６年度の成果と課題を踏まえて、令和７年度からの「戦略的「令和の里海づくり」基盤構築事業」に応募することを確認し、了承された。
② 当該事業は、3ヶ年事業であり、採択された場合、活動の継続が条件であること等を説明した。
③ 令和７年度への公募への採択に関わらず、環境学習や講演会、本協議会を継続していくことで了承された。
（３） その他協議事項

① NPO 玄海灘を守り育てる会における今後の予定として、令和 7 年度「戦略的「令和の里海づくり」基盤構築事業」とは別に講演会の実施や活動報告としての協議会の継続が了承された。

② 唐津っ子育成事業（早稲田佐賀高等学校での民泊に加え、ダイビング免許取得等を含むマリンスポーツ等を提示し、自然コンテンツづくりと啓蒙活動を両立させていくことを意図した事業）を別途進めていくことで合意した。将来的には当該事業を発展できれば、ターゲットは福岡市に限らず、首都圏に拡大する可能性も秘めている。

【資料６】「自然コンテンツ【体験編】」におけるアンケート

１．初級編（小中学生対象）

（１） シュノーケリングは楽しかったですか？（はい／いいえ）

（２） シュノーケリングで１番楽しかったのは何ですか？

（　　）

（３） シュノーケリングをもっと楽しくするためのアイデアがあれば教えてください。

（　　）

（４） 他に体験してみたいマリンスポーツは何ですか？

（　　）

２．初級編（父兄対象）

（１） お子さんは楽しんでいたと思いますか？（はい／いいえ）

（２） イベントの内容やプログラムについて、改善点等、お聞かせください。

（　　）

（３） スタッフの対応や案内について、改善点等、お聞かせください。

（　　）

（４） 安全面について、どのような配慮がされていたと感じましたか？

（　　）

（５） 今後同様の体験会に参加したいと思いますか？理由を教えてください。

（はい／いいえ）

（　　）

３．一般体験編

（１）イベントのプログラムや内容について、どうでしたか？

（Ａ：満足だった、Ｂ：やや満足だった、Ｃ：満足とも不満とも言えない、
Ｄ：やや不満だった、Ｅ：不満だった）

（２）プログラムや内容での改善点等をお聞かせください。

（　　）

（３）安全面について、どのような配慮がされていたと感じましたか？

（　　）

（４）スタッフの対応や案内についてどう思いますか？

（　　）

（５）今回のイベントは、（参加したいと思う）適正価格はいくらぐらいだと思いますか？

（　　）

（６） その他、ご意見・ご感想等あればお聞かせください。

（　　）